



モグラ便り

2021年 秋季号



目次

- ◆ 巻頭言 鶴田諭一郎・・・01
- ◆ インボイス制度開始について・・・04
- ◆ GLOBAL GAPグループ認証について・・・08
- ◆ 有参協活動報告・セミナー・・・09
- ◆ 芦北町 鳥獣害対策・・・11
- ◆ 産地便り 置戸マルタ・・・15
- ◆ 連載企画 オランダ農業の今・・・17
- ◆ 産地研修報告・・・21
- ◆ 鶴田相談役 談話・・・26
- ◆ 北海道大会、全国大会案内・・・28
- ◆ 編集後記・・・28



6月23日の株主総会で創業者である鶴田志郎と前会長である佐伯昌彦が引退し、山本政義会長を中心とした新体制に移行しました。合わせて静岡県東海マルタの本橋克晴社長もマルタの役員を退任され、今度は私が株式会社東海マルタ

生産意欲を刺激するための仕掛けづくり

代表取締役社長執行役員 鶴田諭一郎

の役員として関わらせていただくこととなりました。引退されたお三方の長年の功労に深く敬意と感謝の念を表すとともに、引き継いだ新執行部の真価が問われることとなり、あらためて身の引き締まる思いです。何卒倍旧のご支援ご厚情を賜りたくよろしく願います。

2020年度はコロナ禍の話題に明け暮れましたが、まさか2021年度もマスク必須の生活を送るとは発生時には予想しておりませんでした。ワクチン接種が進み、緊急事態宣言が解除され、人の流れも戻ってきたことは本当に喜ばしい事だと思います。私たちも昨年度はとにかく

生産現場に入れなかったという不安が大きく、現場の変化を感じながら新しい企画の種を蒔いていくということができず焦燥感が募った一年でした。一年間のご無沙汰をお詫び申し上げます。

マルタでは2021年度に入り、訪問先のご理解を頂いた上でですがPCR検査を受けての出張を再開しております。もちろん色々制限付きではありますが、やはり単純に「対面でお会いするのは良いなア」と思っているのが正直なところです。第六波も心配しながらではありますが、動けるときに動いておきたいと思います。

コロナ禍での生活は皆さんいかがだったでしょうか。マルタでも、時差出勤・車通勤等出勤時の三密回避、テレワークの推奨と出社制限、外出時のPCR検査の徹底、各種行事の自粛と、時期によって強弱はありますが色々施策を打ちながらなんとか無事に業務を継続できています。

産地の皆様のみならず、販売先・納品先の皆様、あるいは運送・パッケージなど物流に関係される皆様の多大なご協力により事業を止めることなく継続できていることにあらためて感謝申し上げます。

残念ながら青果業界は、このコロナ禍を利用したDXへの移行は遅れた感があります。テレワーク移行の際の最も大きな障害がFAXによる受発注でしたが、マルタも準備の遅れを痛感しております。産地・お取引様のご協力も戴きながらではあります。徐々にデジタル化への移行を進めてまいります。

またコロナ禍で必然的に増えたオンラインによる商談・会議・勉強会。私もZOOMを開かない日はないのではと思うほど毎日お世話になっております。マルタでも、オンラインによる商談は結構頻繁に行っており、使いこなすと便利だということも分かってきて生産性も上がっており、

今後アフターコロナになっても一定割合、残っていくものと考えます。

昨年の4月以降テレワークも進みましたが、つくづく会社というのはコミュニケーションの場だなど実感しました。



前掲の写真は、7月末に開催しました社内試食会の様子です。企画会議の一環として開催しましたが、産地の皆様の御協力も戴き、実際に商品を試食しながらワイワイガヤガヤ盛り上がりました。産地の皆様からも左のように商品説明をオンラインでいただき理解を深めました。



テレワークはとすれば誰とも話さないで一日が終わるといふこともあり、それはそれで作業効率は上がるという面はありますが、やはり孤独なものです。飲み会がようやくできるようになったといふこともありますが、テレワークをやってみてわかる仲間のありがたさ、コミュニケーションの大事さをひしひしと感じている今日この頃です。

また、商品を実際に見て、食べて、意見を言い合って企画に役立てるとともに産地に感想を戻していく。考えれば今まで我々が産地や商談の現場で行っていたこととであり、産地にバイヤーを案内したりして、このコミュニケーションの場を作ってきたのがマルタの強みの一つではなかったかと思えます。今回の試食会では主に新規取扱商品に絞って行いましたが、職員のみならず、コロナ禍で動けなくてもそれぞれ工夫しながら「つなぐ」努力を怠らなかつたことに感動した一日になりました。

昨年一年間お休みしました北海道生産者大会・全国生産者大会も今年はオンラインで開催いたします。これも大会を何とか維持・継続したいという職員の気持ちから開催を決めました。オンラインという初の試みですが、工夫を積み重ねて新しい形の「学びあう場」を作れればと思います。北海道大会は12月17日、全国大会は2022年の2月4日になりますので皆様ぜひ覗いてみてください。

5月に発表となった農業センサス2020でも、生産現場における生産力の相対的な低下が具体的な数字となって突き付けられました。人件費や燃料費をはじめとしたコストの上昇への対応も待ったなしです。マルタの使命は生産者の「生産意欲の向上に向けた仕掛けづくり」だと思います。今までの関係性にオンラインという武器を加えて対話を積み重ね、更に精進したいと思えます。